

# 令和6年度事業報告

社会福祉法人 三田市社会福祉協議会

# 基本方針1 誰もが『認め合う』安心な地域づくり

## 1. 互いが尊重される地域づくり

### 事業計画 1

#### セルフヘルプグループ支援の充実

「支える」、「支えられる」という関係でなく、自分がこう暮らしたいという想いを「理解し」共に「考える」ことは、「安心」「自信」につながります。その実現に、同じ生きづらさを抱えた人同士のグループ（セルフヘルプグループ）支援の充実を図ります。

関連して当事者の地域参加実践に向け、「当事者主体」「本人主体」の関連プログラムのあり方も当事者の皆さんとともに考え、実施につなげていきます。

#### (1) 取り組み ※○：成果、△課題（以下同様）

冊子等を用いた当事者活動の広報支援だけでなく、重度身体障害者の方たちが行っている清掃活動を近隣の企業や銀行等と一緒に活動しないかとの参加呼びかけを行いました。

○ 3月19日より一緒に清掃活動を実施する運びとなりました。はじめての試みでしたが、企業からも「一緒にできると思っていなかったが、色んなお話を聞くこともでき良かった。」「今後も続けていきたい」との声があり、相互理解へ広がる機会となりました。（**当事者と企業の取り組み R5年度 0件 → R6年度 1件**）

△ 生きづらさを抱えた方が自ら困りごとを受け止め、活動の一步を踏み出すには、個人や周囲に「受け入れてもらえるだろうか?」「一緒に何かするって難しくないだろうか?」「危険は伴わないだろうか?」など常に大きな葛藤が生じます。また、受容と分かち合いを大切にする活動は、当事者自身の主体性から成り立つものです。当事者の皆さんとともに考え、活動の一步を踏み出すには、継続した取り組みが必要です。

#### (2) 次年度に向けて

今回のように当事者の地域参加実践に向けた当事者主体、本人主体の取り組みをすすめるためには、ニーズを受け止めやすい立場にある各相談支援機関が当事者の葛藤に寄り添い、働き掛けることが、グループへの参加や立ち上げ等の行動につながります。そのため、セルフヘルプ活動は当事者の課題解決に向けた側面的支援となることについての理解を促すとともに、生きづらさを抱えた人同士のグループが活動の一步を踏み出せるよう、支援の充実を図っていきます。



## 2. 参加しやすい・参加したくなる多様な場づくり

### 孤立を防ぐ見守り・つながり推進事業

地域に住む多様な人が社会的に孤立する状態に陥ることを防ぐため、身近な地域でのふれあい・交流できる場や機会を通じて、住民相互が見守り合える緩やかなつながりづくりを推進します。その一つとして、身近な地域でのつどい場づくり（サロンやカフェ）に向けた助成支援を行います。

#### (1) 取り組み ※○：成果、△課題（以下同様）

○ 高齢者や単身世帯が増加する中、住民同士のつながりや見守りが重要となっています。そのため、多様な人の居場所やつながりの拠点となるつどい・サロンや喫茶・カフェ活動の広がり活動促進に向け、助成事業を行いました。**（つどい・サロン86団体 助成総額3,656,000円）**

とくに、新たな活動団体の立ち上げ時の支援は、他の支援機関からの資金援助が困難なことから、スタートアップ支援を別プログラムとして明確化することで、上半期2団体、下半期1団体の新規団体の立ち上げ支援へとつながりました。

△ 活動から10年以上経過し世話役の高齢化等により活動を終了するつどい・サロンが見られるようになってきています。次の担い手が見つからないという課題は、他のつどい・サロンにも通じるものであり、支える側の支援も急務となってきています。高齢となっても住民同士様々な年代の交流機会を通じて、地域の中で居場所と役割を持つことの重要性とは、介護予防、生きがいづくりに対して効果があることは明白であり、地域づくりに対する重要性は益々高まっていく中で、活動への支援は必要性を増しています。

#### ▼いきいき百歳体操後の茶話会の様子



#### (2) 次年度に向けて

つどい・サロン活動の主体が地域をベースにする団体のみならず、健康づくり、認知症の人と家族の居場所づくりなど住民同士の興味、関心でつながる、つどい・サロン活動への広がりが見られます。また、地域の福祉施設・事業所利用者に参加を呼び掛けるつどい・サロン活動も見られるようになりました。今後も地域活動の担い手の広がりを敏感に掴みながら、障害者やひきこもりなど地域の中でつながりを作りにくい当事者と、地域活動者との出会いから共生の地域づくりを意識できる、多彩で柔軟な住民同士の居場所づくりが推進されることを支援していきます。

また、介護予防・日常生活支援総合事業制度改正に伴い、つどい・サロン活動を実施する地域活動団体に対して今後検討される三田市の支援体制について注視していきます。

### 3. SOSが出しやすい地域づくり

#### 想いと力が循環する「さっちゃんのみごころお福分けネットワーク」

近年の社会変化は、経済面だけでなく、人とのつながり方や活動を含め、暮らしに大きな影響を与え続けています。とくにひとり親世帯や就学援助世帯における環境の変化は著しく、顔の見える関係やつながり構築を困難にし、困りごとを見えづらくするなど、社会的孤立を起因とした虐待や経済的貧困が社会問題となっています。そのため、地域でのつながりがある安心な暮らしを目指し、食品提供などの一時的支援などを通じた

- ① “孤立”を感じさせることのない“つながりづくり”と主体性の向上（セルフヘルプ）
- ② 困りごとや潜在的なニーズを受け止めるしくみ（セーフティネット）
- ③ 支援を要する人を受け止め支えるしくみづくり（資源開発・支援ネットワークづくり）を進めます。

▼ありがとうメッセージを書いたり、  
受取りに来てくれた子どもたち



#### (1) 取り組み ※○：成果、△課題（以下同様）

- 学校の長期休暇に合わせ、さっちゃんのみごころお福分けネットワークを3回（第15弾～17弾）実施しました。地域のみなさんから寄せられた寄付をもとに、お米や麺類、簡単に調理できるレトルト食品などを延べ684世帯・1164人に配るとともに、生活状況を伺い必要な機関や支援につなぎました。

また第15弾において民生委員児童委員とつながることを希望した家庭（17世帯）のうち、11世帯に対し、“歳末たすけあい事業の訪問（カレンダーを活用した友愛訪問）”の一環として民生委員児童委員が訪問しました。対象世帯から「ずっと孤独を感じていたけど、『ひとりじゃない』と思えて、心強く感じている。」「こんなにやさしい地域なんだと安心した。」という声をいただき、歳末たすけあい事業の取り組みの本質に合う形で本事業が連動し、日頃の見守り・つながりが育まれる機会となりました。（対象 三田市内の「ひとり親世帯」または「就学援助世帯」）

- △ 食料品やガソリン等の物価高騰、とくにお米の価格高騰はひとり親世帯や就学援助世帯だけでなく、一般世帯や企業にも打撃を与え、寄付にも影響を及ぼし、お米の寄付は令和5年度の1/3程度となりました。とくに、対象の世帯ではお米を食べない日をつくる等の状況を伺うことも多く、さらに困窮する可能性が高まっています。そのため、ひとり親世帯のみならず、子どもが生きづらい暮らしとならないよう、寄付の協力を募るだけでなく、地域とつなぐことで、SOSに気づき、孤立することのない“見守りの輪”を広げ育むことが重要となっています。

#### (2) 次年度に向けて

令和6年度に新たに取り組んだ担当民生委員児童委員を通じた地域とつながった家庭の変化を追うとともに、継続して対象者に声掛けを行い、孤立を防ぐ日常の地域でのつながりへと展開を図ります。また、引き続き「さっちゃんのみごころお福分けネットワーク」を実施し、ひとり親、就学援助世帯の困りごとに寄り添いながら、必要な社会プログラムの開発に努めます。

## 基本方針2 多様な力がつながり、協働する仕組みづくり

### 1. 多様な力と共感が交わるきっかけづくり

事業計画 1

#### 多分野活動者交流会の開催

ボランティア活動は私たちの身近な言葉となり気軽に参加しやすい社会となっています。しかし活動範囲や内容が充実・多岐に渡る中で、地域型とテーマ型、福祉活動団体と市民活動団体など、分野毎でみると活動の担い手が不足しています。そこで、多様な組織・団体が互いの強み・弱みを補完し合うことで効果的な地域づくりをすすめられるよう、力合わせのできる“出会いと協働”の機会づくりに取り組みます。

#### (1) 取り組み ※○：成果、△課題（以下同様）

##### ○ 多分野活動者交流会を開催しました。（2月12日）

交流の機会が少ない地域活動団体（地域活動者や生活支援に関わるグループなど）と専門職（ケアマネジャー・施設職員など）がお互いの活動を理解することで、現在の課題の解決の糸口を見つけ出し、活動をより円滑にし、普段より交流できる関係づくりの場を設けました。「その人らしく暮らせよう地域活動者やボランティアと専門職が支援するには、どんな連携ができるか考えてみよう」をテーマに意見交換し、それぞれの地域でいろいろな活動があることを知り、新たな出会いや気づき、発見を感じる機会となりました。

また、参加された方より後日、意識の変化やモチベーションの向上につながったとの感想もいただきました。

△ 地域活動者、専門職と共に自身の活動や考えを振り返り、お互いのことを知るという機会から進んで自分自身で何かを変える主体的な動きにつながり、協働をイメージする機会へ向けての取り組みが必要となっています。

#### (2) 次年度に向けて

市域全体向けだけでなく、各地域のテーマや課題に沿った研修会の提案や専門職との出会いと協働についても、働き掛けを行っていきます。

#### ▼多分野活動者交流会の様子（72名参加）



## 2. 力の循環を促進する「拠点と人」づくりの推進

### シニア・ユースひろばを軸とした地域のふくしを創る“人づくり”の促進

従前の世代間交流する機会に留まるのではなく、多様な人や世代がシニア・ユースひろばでの出会いやつながりを通じ、自分らしさを活かした暮らしやふくし視点の醸成につながるよう、ボランティア活動センターや大学などあらゆる機関や団体と連携し、拠点機能の強化を目指します。そこで多様な人や世代が同じ興味・関心で集い、誰もが気軽に参加できる機会づくりとして取り組みの促進・事業を拡充し、

【大テーマ】LETS (レッツ=Life・Easy・Together・Smile)

意味：暮らしの中で・気楽に・誰かと一緒に・笑顔になれる

①” Each Teach Learn” ～学び合いの場づくり～

②” Me・みんぐる” ～出会いと交流の場づくり～

③” レッツ Join!” ～参加の機会づくり～ を小テーマに事業を展開します。

※みんぐるとは「Mingle」=交わる、多様なものが混ざることを意味しています



#### (1) 取り組み ※○：成果、△課題（以下同様）

○ 大テーマである LETS を包含する事業として、「Seasons ふらっと」

“ふらっと Summer Carnival” (8/4(日) 参加者1,182名) に続き、中規模イベント ▲工作や将棋など、“好き”なことを通じた交流

として“ふらっと Carnival ～鬼はそと・福はうち～” (2/2(日) 参加者863名)を関西学院大学ボランティア活動支援センターと協働し企画・運営で実施しました。学生・ボランティアがゲームや工作、屋台販売などを企画し、小さな子ども連れの親子や、小中高生から大人までが参加し、前回よりも交流を軸とした内容によって、高齢者と学生・学生と子どもなど、多世代が交流する場面が多く見られました。協働実施した学生からは、次年度も「継続した取り組みをしたい」という意欲の声が上がっています。

△ コロナ禍による行動制限や社会変化は、いまだその影響を大きく与えていることが、下半期の取り組みでも見受けられました。上半期での取り組みでは、異なる世代との協働に対する不安が見られ、下半期の取り組みでは経験不足による準備や運営・進行の判断が難しいなどの状態が起きました。それらはコロナ禍で部活動の制限や文化祭などがなくなったことなど、長期にわたる人間関係構築の不足により生じているものであることが考えられます。

そのため、それらの背景を理解し学生の社会体験の機会としても捉える「寛容な協働」のあり方が必要です。

#### (2) 次年度に向けて

令和7年度は多世代交流館横のフローラ88の解体工事があるため、大規模イベントの実施が難しい面もありますが、力合わせによる効果を高めたいけるよう、継続した協働実践、多世代交流の実施に向けて学生とともに検討を行っていきます。

### 3. つながりで築くケアの推進

#### 事業計画 3

#### 介護サービスセンターによるトータルケアサポートの推進

自分らしく安心した在宅生活を支援するために、介護サービスセンターの行う事業（訪問介護・訪問看護・通所介護・生活介護・居宅介護）をそれぞれ単体で実施するだけではなく、連携を図り支援していくことで利用者一人ひとりが主体となり、介護やサポートが必要となっても「自分らしい」暮らしを実現できるケアをトータルケアとして推進します。さらに必要な関係機関や地域活動者等とも連携を行い、より地域自立生活を支援するためのつながりを広げるトータルケアサポート（総合的な支援）の展開を図っていきます。

#### (1) 取組み状況 ※○：成果、△課題（以下同様）

○ 社協ならではのトータルケアサポートをすすめていくために介護サービスセンター職員への説明を行い、取組を開始しました。また、説明する過程で職員説明用チラシも作成しました。

当協議会は、訪問介護・訪問看護・通所介護・居宅介護支援事業所などの事業を行っており、普段から複数のサービスを利用していただいている利用者、家族の情報や困りごとなどを情報共有し、各々の利用者等が抱える課題等の解決に向けて取り組んでおります。（介護サービスセンター全体研修会 9 回開催）

△ 介護サービスセンター職員への説明を行いました。当協議会職員全員が理解し、地域活動者のみなさまや関係機関に向けて情報発信を行い、取組事例や結果などを共有できる形が求められています。

#### (2) 次年度に向けて

利用者の「こう生きていきたい」をサポートできるよう引き続き事業を行っていきます。また、当協議会職員及び地域活動者、関係機関への周知や取り組んだ事例を積み上げながら、よりよいトータルケアサポートの推進及び事例の共有などを行っていきます。



▲職員向けチラシ

#### 【その他取組み】

##### ① 分野別ネットワークの促進支援(P12参照)

② 社協内ケアマネジャー連携会の開催 今年度は連携会で取り組む内容を確認し、多職種の連携が必要な方の事例検討や介護保険認定申請中の方の担当に関する事で連携会を開催していくこととなりました。

##### ③ 権利擁護実務者会議の開催

相談支援に関わる分野を越えた専門職のプラットフォームとして開催。専門職間のネットワーク構築や連携の道筋の学び、必要な仕組み検討の場につながっています。

◇開催日時 毎月第4木曜日 14時～16時（6月は18時～20時） ◇参加者 延べ154名（令和5年度 182名）

# 基本方針3 SOSをまるごと受け止め、支える体制づくり

## 1. まるごと受け止め、みんなで支えるチームづくり(包括的相談支援体制の推進)

事業計画 1

### 総合相談支援体制の構築 民間福祉・団体/分野別ネットワークの促進支援

職員一人ひとりが参画する社協内の体制整備及び多機関との協働による総合相談体制の構築を継続します。

また、「多機関協働」の一環として、複雑・困難化する相談やSOSを受け止められる仕組みづくりに向けて、横断的に支える民間福祉・団体ネットワークや、地域包括支援センターが構築する地域包括ケアシステムなど分野別ネットワークの促進支援も継続して行います。

#### (1) 取組み ※○：成果、△課題（以下同様）

○ 右「社協がすすめる総合相談支援体制」構築に向けて、職員向け研修（全3回 9～11月）を行い、「推進計画」「市」「地域住民」それぞれから社協に寄せられる期待を聴く場を設け、社協内連携・多機関協働をすすめました。また、支援分野を越え専門職が学び、交流できる場として、実行委員会形式で市内の福祉関係者を対象に地域福祉推進研修を12月に開催し、80名が参加しました（右下に写真・アンケート結果記載）

さらに市と高齢者虐待発生時支援マニュアル検討チームや認知症施策検討チームの共同運営を行いました。連携による専門職のケースの抱え込み状況の改善や、現場の課題解決につながる事業企画・推進につながりました。

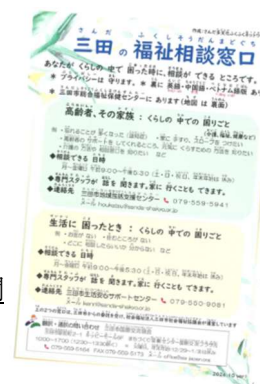
#### 横断的に支えるネットワークの一例

##### ◆ さんだ多文化ふくふくネットワーク【国際交流協会+社協】

…「外国にルーツのある方の生きづらさ」を支えるために立上げ。令和6年度は、多言語相談窓口チラシ

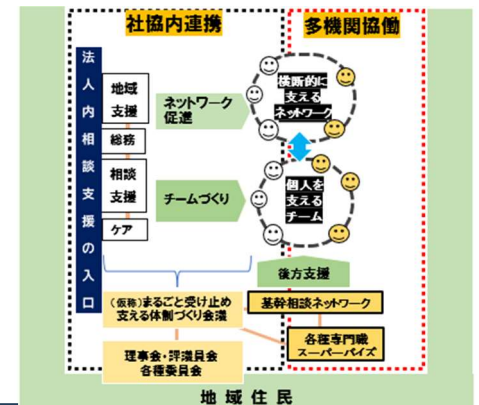
（やさしい日本語、英語・中国語・ベトナム語の4言語で記載）を作成しました。

そのネットワークを活かして、市家庭児童相談室、教育機関も含めた個人を支えるチームの実践も生まれました。



アンケートの声(抜粋)

- ・顔が見える関係づくりの一步になりました
- ・困りごとなどが、どうすれば先に進み実現できるのかが、やっと分かった気がします。
- ・研修に参加することで、自身の分野でも支援の考え方の幅を知ることができました。また、それ以上に他分野での支援・関わり方を知ることができ、とても有意義な時間となりました。



事例を通して、つながり方を学ぼう  
～統：悩みごとほっとかせない  
分野を越えたつながり体感120分～

◆ みちかいご（身近+介護）【福祉・介護の魅力発信を目指して、市内有志9法人で設立】

- … 三田の福祉お仕事見学ツアー（全3回 計12名）、トライやるウィークに介護・福祉現場が選ばれることを目指した魅力発信チラシ作成、福祉・介護のための実践型広報スクール（全10回：1～3月 計115名参加）などを実施。



△ 急速な高齢化の進展、物価高騰、家族機能の弱体化等の社会環境の中、支援ニーズの複雑化・困難化、1つの家庭に様々な生きづらさが共存している傾向が継続しており、具体的なケース支援に必要なサービスの充実、個人を支えるチームの構築とともに社会資源の開発や仕組みづくり等横断的に支えるネットワーク構築が求められます。

(2) 次年度に向けて

上記取り組み及び次年度から本格開始となる市重層的支援体制整備事業実施における市との意見交換を継続します。

また、新型コロナ特例貸付対象者に実施したニーズ調査内容を、「多様な場づくり」、「SOSが出しやすい地域づくり」の観点から、ほっとかへんワーカー等法人内連携により分析し、必要なプログラム開発につなげます。

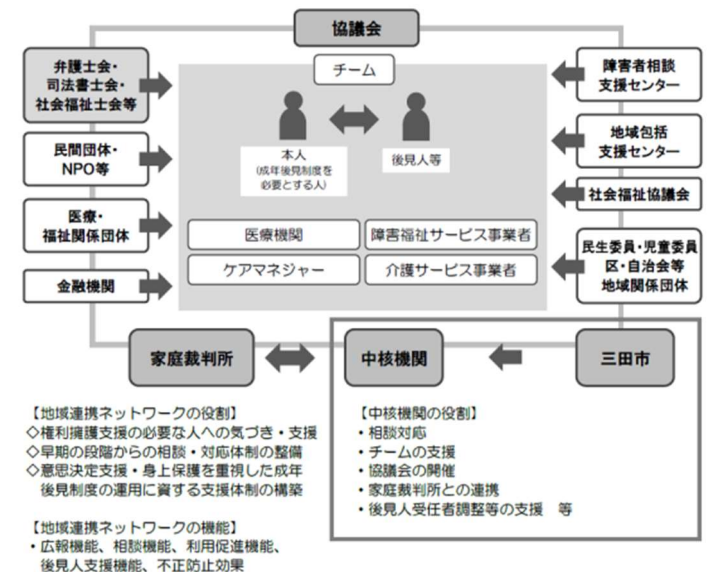
2. 権利擁護支援体制の促進

権利擁護支援体制整備の構築支援

令和5年11月の三田市権利擁護・成年後見制度利用促進地域連携ネットワーク推進協議会の発足により、三田市権利擁護・成年後見支援センターが、国の第二期成年後見制度利用促進基本計画に基づく中核機関として位置づけられました。今年度も市・関係機関と協働して、成年後見制度利用促進にとどまらない権利擁護支援体制の構築支援を継続して行います。

事業計画2

- 三田市における権利擁護支援体制整備に向けて、市と定期的な協議を重ねるとともに重要な役割を担う専門職（弁護士会・司法書士会・社会福祉士会）と連携し、（後見人受任）協力者登録制度の運用を開始しました。



また、地域住民の権利を守り、自分らしく生きることができる地域づくりに向け専門職とともに住民の立場で伴走型の支援を担っていただく「権利擁護サポーター」活動育成を継続（学びの場の開催：全4回）するとともに、第2期養成講座を12月に開催し、活動の拡大を図りました（13名登録）。

ケアマネジャーなど専門職からの活動依頼も増加傾向にあります。

【県「権利擁護の多様な担い手養成モデル事業検討委員会」参画（市・中核機関・社協）】

- 3月17日には、三田市における成年後見制度及び権利擁護支援体制づくり専門職向け研修会を開催しました。権利擁護に関わる専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）、相談機関（地域包括支援センター、相談支援事業所、市窓口など）、病院の地域連携室など、幅広い分野から60名の参加につながり、「中核機関の周知」「個人を支えるチームづくり」の促進を図りました。

#### アンケートの声(抜粋)

・各専門職から様々な意見が出て、とても参考になりました。立ち位置が違っていると見え方も変わってきます。そこをならす意味でもよい機会になりました ・気軽に交流できる機会がたくさんあるとありがたいです。など

- 身寄りのない人の支援ネットワークのあり方・終活プログラム研究について、地域包括支援センターなど関係機関への問合せが増加している中、法人内で検討を開始しました。

△ 前項と同様に支援ニーズの複雑化・困難化等の傾向があり、権利擁護ネットワークの計画的な構築や関連プログラムの必要性が高まっています。



## (2) 次年度に向けて

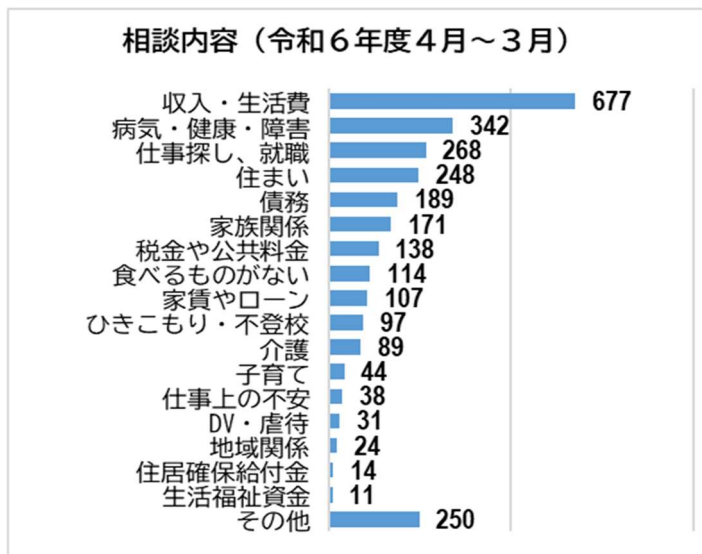
国第二期成年後見制度利用促進基本計画に基づく中核機関として、三田市権利擁護・成年後見制度利用促進地域連携ネットワーク推進協議会を市と協働で開催し、「協働・連携」「計画性」をキーワードに、成年後見制度利用促進にとどまらない権利擁護支援体制の構築を市・関係団体・機関と協働して取り組みます。

また、個人を支えるチームづくりにつながる、学び・交流の場づくりを継続させるとともに、住民の方にわかりやすい事業とするために、事業の名称変更を行います【権利擁護専門相談会➡福祉の法律相談会】

● 市公的相談窓口の運営 \* 【 】内は令和5年度

① 三田市生活安心サポートセンター・三田市権利擁護・成年後見支援センターの運営

生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業・住居確保給付支給などを「市生活安心サポートセンター」判断能力の低下や、人・地域との関わりが難しいなどの生きづらさを抱える人が「自分らしく安心して生活ができる権利」を護るサポートを「市権利擁護・成年後見支援センター（R5.11～中核機関）」として、関係機関と連携しながら実施しました。生活困窮分野の相談は前年度と比較して増加傾向にあり、継続相談が主となっています。



権利擁護・成年後見支援センター

相談者数

新規 120人【141人】実人数 134人【171人】

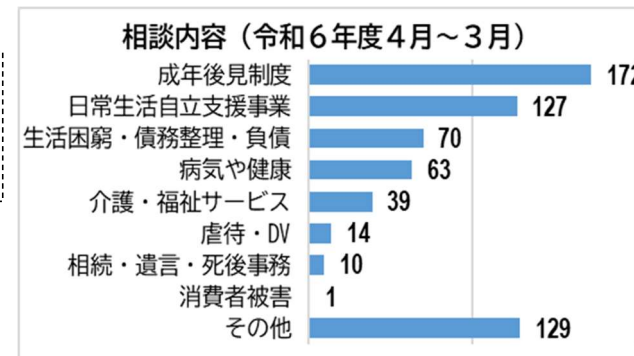
生活安心サポートセンター

相談者数

新規 125人【116人】実人数 195人【190人】

\*継続相談中心

\*その他＝雇用保険、ボランティア調整、警察署への同行、廃車手続き、他機関との情報共有、出金及び支払い同行、細かな連絡調整等



権利擁護専門相談会

将来に向けた成年後見制度利用の検討や遺言・債務整理など法律に関する権利擁護ニーズ、支援者である専門職からの相談にも応じました。

開催日数：11日

※ 第1木曜日：弁護士、社会福祉士等／第3木曜日：司法書士、社会福祉士等

相談者数：14名【17名】

日常生活自立支援事業

判断能力が不十分な人々の自己決定を支援し自立した地域生活を送ることができるよう支援を行いました。

◆利用者数…19名（認知症高齢者…11名 知的障害者…4名 精神障害者…4名）【18名】

◆訪問回数…延べ 382回【361回】

## ② 三田市地域包括支援センター（基幹型／地域型（三田・三輪南、ウッディタウン・カルチャータウン）

高齢者や家族の相談を受け止め、訪問活動等による実態把握を行い、必要なサービスや地域とのつながりづくり支援を行う地域型2か所の運営（下表）、市内全6か所の地域型をサポートする基幹型の運営（相談件数 780件【874件】）を行いました。

地域型	三田・三輪南		ウッディ・カルチャー	
	R6	R5	R6	R5
相談実件数	1,977	1,857	2,112	2,168
相談延べ件数	2,732	2,755	3,755	4,000
一般高齢者	319	737	526	609
虚弱	1,088	553	890	872
要支援	704	741	1,173	1,292
要介護	598	675	1,078	1,173
その他	23	49	88	54
合計	2,732	2,755	3,755	4,000
介護保険制度	1,462	1,515	2,405	2,619
保健福祉サービス	250	203	447	196
医療・疾患・投薬	547	432	156	711
生活全般	1,193	1,324	39	1,551
介護	234	241	348	493
認知症	508	582	986	1,102
安否確認	150	216	50	96
インフォーマルサービス	53	42	32	63
その他	478	520	24	365
虐待	27	79	128	3
成年後見	42	108	0	15
消費者被害	3	13	1,396	5
その他権利擁護	75	67	74	94
介護離職	1	1	282	2
合計	5,023	5,343	6,367	7,315

\* 『高齢者虐待発生時(疑い含む)の相談窓口＝地域包括支援センター』の民生委員児童委員向け研修の場を設置(各包括・基幹型・市で協働実施)

### 認知症関連事業

\*キャラバンメイト・地域型認知症地域支援推進員と随時連携

- ・もの忘れ相談(61件 区・自治会回覧協力あり)【68件】
- ・認知症介護者交流会(12回 76名)【12回 69名】
- ・タッチで脳の健康チェック  
(拠点5回+出張:7回 延べ194名)【13回 188名】
- ・【新】ハニーFM「もっと知りたい認知症のこと」企画協力  
月1回認知症地域支援推進員等が出演
- ・【新】9月アルツハイマー啓発月間に向けた  
オレンジガーデニングプロジェクト実施 47組参加  
(個人29 団体・施設18 施設)



- ・知る 見る 聞く認知症開催 延べ212名参加【283名】
- ・オレンジライン(認知症関連情報の発信:登録者数226名)【129名】
- ・若年性認知症多職種連携会開催(認知症疾患医療センター連携)  
\* 基幹型認知症地域支援推進員相談件数 338件【477件】

・ウッディ地域包括支援センターでは、キャラバンメイト・認知症サポーター交流会や認知症高齢者本人が参加する園芸・お出かけボランティア活動などを実施

### フレイル予防教室

健康で自分らしい生活を送るために、専門職・団体と連携し、地域活動の場への講師派遣を行い、健康寿命の延長に向けたアプローチを行いました。

(団体数 47団体122回実施 延べ受講者 1,843名)【1,905名】

- \* 今年度から市健康増進課と協働で実施(上データは合算)
- \* 関連して、みんなのフレイル予防教室を神戸医療福祉専門学校三田校と共催。体組成計を活用した体力測定も実施(全19回 360名)



# 基本方針4 地域福祉を進める基盤づくり

## 1. 社会福祉協議会の機能強化

事業計画 1

### 持続可能な組織経営に向けて

社協が三田市の地域福祉の推進主体として、積極的な事業運営を図っていくために、組織のあり方を法人内部として見据える経営計画（令和6年度～10年度）を策定しました。

法人理念として定めた3つのよかった（住んでよかった、出会えてよかった、わたしでよかった）を地域に生み出すための、組織体制や人材育成、財政基盤の強化を図ります。

### （1）成果と課題 ※○：成果、△課題

#### ○ 専門チームの設置（地域福祉の推進を担う職員の育成・確保・定着に向けて）

「経営計画」、「地域福祉推進計画」各分野において、全体で横断的に検討すべき事項について専門チームを設置しました。初回となる今回は主任級の職員を中心に以下2つのチームを結成しました。①人材育成・新人研修プログラム検討チームでは、新任職員と併せてコロナ過以降に入職した職員を対象に、これから経験していく様々な場面を想定しながら、求められる社協職員としての姿勢、必要な知識・スキルをはじめ、各係、事業等において実践的場面を体感し、職員間の交流機会としての効果も図りました。②人材確保・職場定着検討チームでは、介護現場の人材不足解消に向けて、「子育てひとり親への就労支援」と「福祉職の人材不足」を掛け合わせにより解決できる方法について探りました。

ともに次世代を担う職員が主体的に参画し、現場としての意見を取りまとめ、法人運営への直接的な意見反映の機会となりました。

#### △ 業務改善実行計画への取り組み

法人の経営状況としては、介護保険事業等の収益を上回る法人の経費となり、管理職を中心にとりくんだ業務改善実行計画では、当年度の経費1,000万円の削減を掲げ、市行政へ委託・補助事業に関する検討機会や、喫茶ポポロにおける新たな取り組みなどを項目に挙げ取り組みましたが、赤字解消の直接的な成果には至りませんでした。また、職員へ財政現状の厳しい現状について共有を図り、福利厚生部分の一部見直しについて理解を求めました。

## (2) 次年度に向けて

収益を得るために、特に福祉の現場では人材の確保・育成・定着が最も重要な要素です。やりがいや達成感、向上心を持ち取り組む職員が評価され住民の信頼を得ることが、強いては社協の価値、評価につながり、サービス利用者の拡大や、地域福祉財源への協力につながるものと考えます。人材を育てることと収益性を高めることを一体的に捉え、更なる経営改善に取り組みます。

## 2. 計画推進の仕組みづくり

### 地域福祉協働推進ネットワークの促進

### 事業計画 2

地域福祉推進計画を推進するために、計画策定委員が中心となり、ネットワークの中で自由な議論と交流・協働を行う、プラットフォーム（地域福祉協働推進ネットワーク）が効果的に運営できるよう、事務局を担います。新たなメンバーが自由に出入りでき、新たな活動や課題解決のための、きっかけとなるよう互いの協働領域の拡大を図ります。

## (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題

### ○ 多様な分野別プラットフォームの運営

さんだ多文化ふくふくネットワーク【国際交流協会＋社協】、みちかいご【福祉・介護のしごと魅力発信】、さんだ子どもまんなかネット【子ども食堂などの支援機関ネットワーク】など、ネットワークごとの運営や各分野の課題解決、目標達成への検討などサポートに取り組みました。多様な主体の力が結集するプラットフォーム（＝交わる機会、基盤、土台）と提言機能を担う、「地域福祉協働推進ネットワーク」では、実践活動の報告機会と、日常の活動における課題提起、それに対する解決の方法を探るグループ協議を行いました。協働するというものの体感と、実際の話し合いから生まれた活動の展開をさらに協働し実践していくことのイメージが、共有されました。



## (2) 次年度に向けて

各分野や事業・活動が、ネットワークを通じたつながりや人の交わりによって、新たな発想や活動が生まれることにより各主体の取り組みがさらに促進され、協働と役割分担が行える幅広いネットワークの構築に向けて、事務局機能を発揮します。

### 3. 住民主体の活動圏域の形成

#### 圏域の違いによる状況の分析と

##### エリア活動に関する共通理解と活動の促進

三田市では、歴史のおよび行政施策的な観点から様々な圏域が設定されています。それにより地域の資源や活動が重なり地域力が強まる点もある反面、重なるがゆえに力を結集しづらく負担の増加や偏りが生じるなども起きています。

まずは、さまざまな圏域で、どのような資源や活動があるのかの情報整理を行い、ふれあい活動推進協議会をはじめとする地域の皆さんと共に、“効果的な力合わせ”に向けて検討を進めていきます。

#### (1) 経過と現状

##### ○ 地域の力が結集される住民主体の活動圏域の検討

市内9地区の会長で構成されるふれあい活動推進協議会会長会で、令和4年度～5年度にかけて三田市内の各活動圏域の異なりについて、①地域活動において“住民同士の力が結集しづらい状況”が起こっている。②生活圏域と学校圏域の異なりが“地域への愛着を育みにくい状況”につながっているのではないか。という、問題意識のもとに現状の分析と検討を重ねてきました。

会長会では、活動圏域の異なりが地域活動を進めるうえでの課題のひとつであると捉え、その壁を超えるため各地区での課題共有と協議が重ねられると共に、会長会としての検討内容を三田市に報告することで協議の輪を広げていくこととし、三田市社会福祉協議会から三田市への報告機会を設けました。

#### (2) 次年度に向けて

地域の現状を踏まえ、地域ごとの特性に合わせた支援を行うため、個別支援、地域支援等それぞれの専門視点を含めた情報の収集・集約を行い、職員が圏域の異なりを踏まえた支援展開ができるよう、引き続き法人全体で認識の共有を図ります。また、地域福祉協働推進ネットワークの中で、引き続き検討を進めると共に各地区での課題共有、協議の力が圏域を超える多様な主体が力を合わせる協働につながるよう支援を進めます。